

チーム大蔵 (大蔵小学校だより)

～ 挨拶・笑顔・元気いっぱい 大蔵小学校 ～

学力特集号

平成29年11月15日
北九州市立大蔵小学校
文責 校長 花島 秀樹

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・無解答率が全体的に低く、問題に対して、粘り強く取り組むことができていた。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む問題の正答率が高い ・「書くこと」に関する問題の正答率が低く、課題がある。
国語B	・無解答率が全体的に低く、問題に関して粘り強く取り組むことができていた。 ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題の正答率が高い。 ・「話すこと・聞くこと」に関する正答率が低く、目的や意図に応じた適切な言葉遣いで話すことができていないことが課題である。
算数A	・未知の数量を口で表し、除法の式に表す問題の正答率が高かった。 ・その他の問題について、全体的に正答率が低い。中でも「数量関係」において、任意単位による測定についての理解が低い。 ・「図形」においては、円を使って正五角形を書くとき、円の中心(360°)を5つに分けた72°で区切ればよいことについての理解度が低く、課題である。
算数B	・無解答率が全体的に低く、問題に対して、粘り強く取り組むことができていた。 ・示された考えを基に図で表し、その図を使って考えたり説明したりする力が付いている。 ・示された式の中の数の意味を表と関連付けて考えることができていないことが課題である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・自己肯定感を感じている児童は全国平均を上回っている。しかし、友達の前で自分の考えや意見を発表することに抵抗感をもっている児童も多いことから、これからも全教育活動において、自分の考えや意見を発表したり、交流したりする活動を充実させていく。 ・「総合的な学習の時間」では自分で課題を立てて情報を収集・整理し、発表することができるかと答えている児童は、全国平均と比較して高い。しかし、友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができていない児童は全国平均を下回る。また、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に描いたりすることが難しいと思う児童も全国平均を下回っている。今後は、自分の考えを表現しようとする児童をより一層賞賛したり児童自らが表現力の伸びを実感したりできるような指導を行い、児童が自信をもって表現活動に取り組めるようにしていく。 ・テレビへの接触時間は増加傾向にあり、2時間以上利用している児童の割合が増えている。テレビゲーム等への接触時間も増加しており、家庭での生活習慣の改善を促していく取組が必要である。 ・1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全国平均と比べて高い。家庭学習で復習はよくしているが、自ら計画したり次の学習に興味をもって予習したりする児童は全国平均と比べやや低い。今後は各通信や学級懇談会等で学習時間の目安や家庭学習の仕方を具体的に示し、家庭と連携して指導していく必要がある。 ・地域の行事に興味をもって参加し、ボランティア活動をすることで地域をよりよくしたいと考えている児童が全国平均と比べて高い。生活科や総合的な学習の時間で、校外学習における地域学習の成果であると考えられる。今後も、生活科や総合的な学習の時間、道徳等の取組とも関連付けながら、年間を通して地域とのつながりをもった指導の充実を図っていく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上のための特設の時間(補充学習)の実施
 - ・毎日、補充学習の時間(放課後15分間)を設定し、学力定着サポートシステムの問題を中心に反復練習を行い、基礎学力の定着を図る。
 - ・朝の学習では、水曜日を算数タイム、火・木曜日を国語タイムとして設定し、学級の実態に応じた課題に取り組むようにする。また、月・金曜日に読書タイムを設定し「読む力」の育成を図るための取組を行う。
- 言語活動の充実
 - ・学習のまとめ(振り返り)の時間を確保する。
 - ・国語科の学習では意見を発表する時、うまく伝わるように話の組み立てを工夫することや自分の考えの理由が分かるように気を付けて書くこと、また文章を読む時に内容を理解しながら読むことができるように、読み取ったことや感じたことを伝え合う場を位置付ける。
 - ・算数科の学習では基礎・基本の知識を確実に習得させる学習を継続する。また、自分の考えを図や式に表すことや説明を書き、相手に伝える活動を通して、算数の活用に関する力を高めていく。
- 総合的な学習の時間・生活科の学習を通しての学力定着
 - ・各教科等との関連を重視した学習展開を図る。総合的な学習の時間での学びを各教科等の理解の深まりにつなげて、さらなる学力の定着を図る。
- 学力推進教員の取組
 - ・学力向上推進教員が教職員に対して授業改善のアドバイスをを行い授業力の向上を図る。また、児童に対しても、個別の支援を行うなどきめ細やかな指導の徹底をしていくことで、学力向上を図っていく。
- 体力向上に向けての取組
 - ・1校1取組である大蔵アイソメトリックの時間を毎週月・金曜日の朝の学習の始めに設定することで、全学年児童の基礎体力の向上を意図した継続的な取組を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校だよりや学校ホームページで保護者に学校での学力向上の取組を伝えていき、学習習慣や生活習慣の改善についての啓発を継続して行う。
- 家庭学習の習慣化を図る
 - ・学年・学級懇談会で学年や学級の課題と現在の取組状況を説明し、保護者に対し理解と協力を得るようにする。また、個人懇談会では、個別の課題を明確にするとともに、学習習慣の定着に向け家庭の協力体制を構築しながら家庭学習を習慣化する。
 - ・自主学習ノートを活用して、自分の課題に応じた学習が計画的にできるようにする。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を宿題等で活用するように指導し、保護者にも呼びかけ、担任がその取り組みを確認、賞賛しながら、児童の学習意欲を高めていく。
 - ・夏休み・冬休み・春休みの課題として、児童の実態に応じた課題を提示し、家庭学習の定着を図る。
- 小中が連携した学力向上・生活習慣の改善の取組
 - ・中学校区小中合同研修会を開催し、児童生徒の学力向上・生活習慣の改善について協議し、共通理解を図る。
 - ・小中連携教員が6年を中心に学習・生活指導を行い、学力向上や生活習慣の改善を図って、中学校への円滑な接続を促す。また、本年度実施した大蔵中学校区「ふやそう笑顔サミット」を継続的に実施して、共通実践を行う。